

NEW

ネ

ネットワーク



Network Shimada

発行者

島田療育センター
院長 木実谷 哲史

就学情報交換会

進学・進路・就労を考えるときに

理解しておきたいこと

(社会福祉士 林 貴美子)

支援部では、例年、就学や進学を控えたお子さんがいらっしゃる保護者向けに情報交換会を実施しています。現在中学校卒業後の進路の幅が広がってきてはいますが、まだ知らないという方も多ようです。少しでも選択の幅が広がる機会になればと思い、「進路・進学・就労を考えるときに理解しておきたいこと」と題し、6月21日(日)に実施いたしました。今回は特別支援学校、チャレンジスクール、サポート校から先生をお招きしてご講演いただきました。

1人目は都立町田の丘学園の大沼健司先生に、特別支援学校の取り組みを中心にお話しいただきました。障害者の就労をめぐる状況や働き方も変わってきており、自分の強み、発達の凸凹を活かして仕事をしている人も増えてきている。またインターンシップや通勤寮の見学、様々な検定を実施しており、本人達のエンパワーメントを高め、学んだことを振り返り選択していくことが大切なことであるというお話をしてくださいました。

2人目は都立八王子拓真高等学校の末石忠史先生に、チャレンジスクールについてと学校選びのポイントについてお話しいただきました。高校生活をイメージして、自分の適正に合った学校を本人が選ぶことが大切だということ。また、いろいろな場面で生き方について考えていく場、機会を持つことが大切だというお話をしてくださいました。

3人目は東京文理学院高等部の魚井算人先生に、サポート校についてと進路指導についてお話しいただきました。高校は学校生活の中で社会的スキルを身につけ、社会に出る準備の場となること。また、卒業時にミスマッチのない進路選択ができるように、早い段階からイメージと実態をイコールにする指導を行っているなどのお話を頂きました。

講演後は、会場からの質問にそれぞれの先生からお答えいただきました。手帳の取得については「使うか使わないかはそれぞれだが、持っていれば支援やトレーニング、障害者求人など選択肢や利用できるものが増える」、必要とされるソーシャルスキルについては、「学校によって違いはあると思うが、授業中に座って話を聞けるか、身支度などができかなど基本的なソーシャルスキルが必要になってくる」とご回答いただきました。

講演終了後は、ブースに分かれて個別に相談できる時間を設けました。多くの参加者が各先生方に熱心に質問されていらっしゃいました。

参加者からは、「様々な選択肢があることがわかった。」「将来も考えながらまた高校入学後のことも考えながら選ぶ必要があると改めて思った。」などの感想がありました。

今後も皆様に有益な情報を提示できる機会を作っていければと思います。

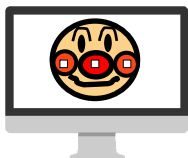


3人の先生方



個別ブースの様子

マジカル トイボックス



マジカルトイボックスは、「障がい重い人のコミュニケーションをもっと豊かにできないだろうか」という思いから、AAC（拡大代替コミュニケーション）を普及させるために始まったイベントです。開催20年目を迎えた今年は、7月18日（土）に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、島田療育センターからはピコピコルームのスタッフ4名が参加をしました。

前半の講演会は「マジカルトイボックスの20年を振り返る」という内容で、第1回イベントから40回目となる今回までの歴史を振り返る内容が講演されました。「マジカルトイボックス」という名称は、20年前に東京都立府中養護学校（現 府中けやきの森学園）で行われた保護者向けパソコン学習会の名称でしたが、より多くの方にAACを知ってもらいたいという思いからイベントを企画し、そのままイベント名に起用したそうです。

後半の機器展示は、機器やソフトウェアのメーカーによる展示が並ぶ中、ピコピコルームはそれらの”ユーザーの立場”として参加しました。今回は、昨年購入したばかりのレクリエーションソフト「TANO」をはじめ、直接体験していただける機器



やソフトを展示し、病棟活動やリハビリ訓練での活用をご紹介しました。これからAAC機器を導入していきたいと考えている方や、療育活動に利用したいと考えている方からの質問も多く寄せられました。

次回は平成28年1月に開催が予定されておりますので、参加を検討されている方はホームページの情報をお待ちください。また、マジカルトイボックスとはやや趣向が異なりますが、島田療育センターではミニ福祉機器展「くつろぎフェスタ」の開催を11月8日（日）に予定しております。AAC機器を含め、車椅子や座位保持椅子、栄養補助食品などの展示を行いますので、お誘い合わせの上ご参加いただければ幸いです。

（リハビリ工学士 神田 水太）



多摩市には現在、私立認可保育園19園と公立保育園2園が設置され、多摩市に在住する乳幼児を保育しています。各保育園共に質の高い保育の提供に努めておりますが、私立保育園園長会と公立保育園園長会は「多摩市保育協議会」を設立し、情報の共有や研修の充実等を通してさらなる保育の向上を目指しております。

多摩市保育協議会では島田療育センターの持つ専門知識を共有させていただきたいとの思いから、平成25年度より継続的に心理士、言語聴覚士、作業療法士の方から子どもたちへの支援・対応法について具体的に学ぶ機会を持たせていただいております。

この学びも今年で3年目に突入しましたが、応用行動分析を学ぶことで、子どもたちの行動やそれに対する支援について「きっかけ」「行動」「結果」に整理して記録したり、望ましい行動にむけて事前

にどんな対応の工夫ができるかなどについて考えたりすることができるようになってきました。

また、食べる機能については口腔内の発達を理論と疑似体験を通して説明していただき、参加者からは「子どもたちの舌の動かし方や口の動かし方、取り込み方をしっかり見ていこうと思う。」「一人ひとりの食事形態や机、椅子の高さを見直そうと思う。」「手づかみやかじり取りの経験を十分させてあげたい。」という声がたくさん聞かれました。

運動発達についても日常の保育に活かせる遊びやヒントを教えていただくと共に、私たち大人の声掛けの仕方ひとつで子どもたちのやる気を高めることも失わせることもあるということに改めて気づかれました。

このたくさんの学びを今後の保育にいかし、しっかりと見立てのもと子どもたちを支援していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（多摩市保育協議会 会長 福島 真）



ティーチャートレーニング



第3回目となる『ティーチャートレーニング』を今年も8月4日から6日の3日間で開催いたしました。この講座は教育や保育に携わる先生方を対象とし、発達障害など特別なニーズのある子どもたちへの具体的な支援方法を、応用行動分析的な視点から考える連続講座です。第3回となる今年は、小学校教員、幼稚園教諭、保育士に加え、小学校校長や特別支援教育を学ぶ大学院生など様々なお立場の先生方10名にご参加いただきました。また「さらに支援方法を学びたい」と昨年に続いて参加をしてくださった先生もおられ、先生方の高い志にスタッフ一同、感動を受けながらの開催となりました。

講義はお子さんが日常生活の中で感じやすい困り感を体験していただく【疑似体験】から始まり、野村医師による医学的背景を含めた【発達障害の特性理解】、心理判定員から【行動観察の仕方】【機能アセスメント】【支援方法】などについての講義を行いました。

3日目には皆様から挙げていただいた事例について考える【事例検討】を行い、“行動支援シート”に沿ってお子さんの行動の意味を考え、支援方法についてアイデアを出し合いました。

ご参加いただいた皆様から「子どもの行動の意味について考えたり、整理する良い機会になった」「いろんなアイデアを先生方から戴くことができた」などのご感想をいただきました。また「挙げた事例に支援を実際に行ってみてからの相談をしたい」「具体的な支援方法をもっと知りたい」など、さらに学習を深めたいといったご意見も多く、先生方のお子さんに対する温かい思いを感じることもできました。半年後位にはフォローアップの開催を予定しておりますので、また皆様と一緒にご相談させていただければと思います。ご多忙の中、また夏の厳しい暑さの中、3日に渡りご参加くださいました先生方に心より御礼申し上げます。ティーチャートレーニングは来年度も開催を予定しております。なお、保護者の方を対象とした連続講座である『ペアレントトレーニング』も年に2回開催しておりますので、詳しくは掲示やHPをご覧ください。

(心理判定員 若松 育子)



事例検討の様子



Q

スプーンやフォークを使おうとせず、手で食べてしまうのですが、どうしたらいいですか？



A

母乳やミルクで栄養をとっていた赤ちゃんは、やがて、ヨーグルトのような形状の食事を食べることから離乳をスタートして、だんだんとお口やその周辺の機能が発達していくことで、舌でつぶすことのできる食事→歯茎でつぶすことのできる食事→歯で噛んで食べる食事というふうに、上手に食べられるようになっていきます。そのような食べる機能の発達と同じように、“食べ方”にも発達の段階があります。始めは、周りの大人からスプーンで食べさせてもらっていたお子さんが、少しずつ食べ物に対して自分から手を伸ばすようになり、食べ物を持って手づかみ食べをするようになって、やがてスプーンやフォーク・箸といった道具を操作して自分で食事をするできるようになります。このような食べ方の発達の中でも、「手づかみ食べ・かじりとの経験」がとても大切であると考えられています。自分自身の手で直接食べ物を手にとり、自分の口に

運び、適切な量を口に含み、前歯でかじりとって食べる、というこの一連の動作の中で、食べ物の形や柔らかさに応じた手や口の使い方、自分の手と口との距離感、自分の口の大きさに対してちょうど良い一口の量、といった大切な情報を学習することができます。また、手に持てるような大きめの食べ物を前歯でかじりとり、舌で臼歯（奥歯）の上へ運ぶことで舌の動きや顎の動きも出やすくなるのです。手が汚れてしまったり、お行儀がよくないからと気になってしまう方もいらっしゃるかもしれませんが、スプーンやフォークなどを使う前に十分手づかみ食べやかじりとりをしたほうが道具を使った食べ方も上手になると言われていますので、是非、手で持ったもののかじりとの経験をさせてあげてください。

(言語聴覚士 圓山 哲哉)

参考文献：「食べる機能をうながす食事」

向井 美恵 編 医歯薬出版株式会社



ゆめ水族園



多摩スマイル吹奏楽団



ちんどん屋

わいわい祭り 2015

多くの方にご協力・ご寄付をいただきました。
心より感謝申し上げます。



美容



ピエロ



お出かけイベント



似顔絵



詳しくはホームページをご覧頂くか、支援部までお問い合わせください。

親子で楽しくからだをうごかそう!

内容：親子で一緒にからだをほぐしたり、音や風、色を感じながら楽しくからだを動かしていきます。

日時：平成27年10月21日（水）
時間：10：00～11：00（受付9：30～）

対象：ひとりで座位をとることが難しい就学前のお子さんと保護者

定員：10名（定員になり次第締め切り）

参加費：ひと家族1000円（当日支払い）

講師：上級障害者スポーツ指導員

体幹を育てる運動遊び

作業療法科主催 保護者向け講習会

～親子で楽しくできる遊び方のポイント～

内容：体幹を育てるために親子で楽しくできる運動遊びをご紹介します。

日時：10月24日（土）／11月28日（土）
※ 両日とも内容は同じです。

時間：10:15～11:30（受付9:45～）

場所：パルテノン多摩
4階 第2・3会議室

対象：保護者、（療育・保育関係者）

定員：20名（定員に達し次第締め切り）

参加費：無料

読み書き 第11回 発達支援センター心理講演会

～学校や家庭でできること～

内容：読み書きを中心とした、学習に困難さをもつ子どもの特性を踏まえた支援方法等について

日時：平成27年11月29日（日）
時間：13：30～16：00（受付13：00～）

場所：島田療育センター（多摩） 厚生棟

講師：後藤 隆章 氏

定員：135名 ※事前申込。10月上旬から受付開始予定

参加費：ひとり1000円 ※当日お支払いいただきます。

地域療育等支援事業のご案内

- ① 外来療育等支援事業(療育相談)**
運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。
- ② 施設支援一般指導事業**
発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。
- ③ 訪問療育等支援事業**
地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。

費用は 無料です。

編集後記

すっかり秋めいてきましたね。運動するにもいい季節ですね。運動する時にアロマ使うとさらに効果がアップするそうですよ。おすすめのアロマはオレンジとグレープフルーツ。オレンジは緊張を和らげてくれる効果があり、グレープフルーツは脂肪組織を司る神経を活性化させ、脂肪分解を促進するそうです。タオルやリストバンド、ウェアにつけて、香りとともに運動してみるのもいいかもしれませんね。食欲の秋でもあるので、運動した後の食べ過ぎには注意しましょう。(林)

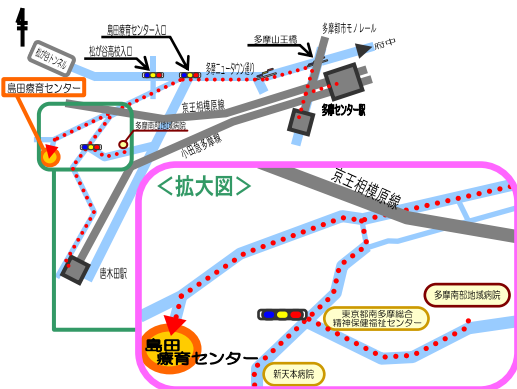
編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部

住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

電話：042-374-2071（代表）

E-mail：Info-room@shimada-ryoiku.or.jp

URL：http://www.shimada-ryoiku.or.jp



〈徒歩〉
多摩センター駅下車
約20分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12番
乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」
下車→徒歩5分

